

## 世界遺産アカデミー認定講師 File No.21

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第21回は、旅行企画会社に勤務され、杏林大学や亜細亜大学で実施されている就職セミナーや検定2・3級講座などをご担当されている、飯島一隆(いひじま・かずたか)さんです。

### ——司教オベールの夢を 実体験!

世界遺産を初めて認識したのは、その素晴らしさと共に命の危険を感じた場所。大学時代の一人旅で、ロンドン留学中の妹を訪れたついでに、ユーロスターでパリまで足を運び、ふと思い立って向かったモン・サン・ミッシェル。ブルターニュ地方のレンヌ駅からバスを利用したのですが、電車もバスも時刻通りには来ず、現地でのやり取りに四苦八苦し、ようやく島に到着した頃には既に日が暮れていました。当時は雨季真っ只中の3月

でしたが、光が空から差し込んで、モン・サン・ミッシェルを神々しく照らし出しました。まさに、大天使ミカエルの降臨を感じさせる情景だったのです。“プラールおばさんのオムレツ”で有名な島内ホテルの「ラ・メール・プラール」を予約していましたが、夜も時間を惜しんで島中を巡りました。その時に、干潟となっていた湾上に寝そべて星空を見上げていたら、いつの間にか波がすぐそこまで迫ってきて、死の恐怖に襲われたのを覚えています。司教オベールの夢に大天使ミカエルが訪れて聖堂を建てさせ、一夜の大



世界遺産の魅力を楽しく分かりやすく伝えます!

津波によってこの地が島と化したという伝説を、身をもって体験しました(笑)。

### ——検定で広がった世界遺産 の魅力と奥深さ

それ以来、孤島に聳える堅牢な大聖堂を目前に言葉を失った感動を届けられる仕事に就きたいと思うようになりました。世界遺産検定も、その流れのひとつだったと振り返ります。検定学習を進めていくうちに、とりわけヨーロッパのゴシック建築様式や石畳みの広がる街並みに魅力を感じるようになりました。シテ島のノートルダム大聖堂は、美しいステンドガラスのパラ窓よりも屋根を支えるバットレス構造に興味を掻き立てられま

すし、ゴシック建築ではありませんが、サグラダ・ファミリアも計算され尽くした採光技法が際立つ構造です。今年7月に現地を鑑賞してきましたが、完成予定の2026年にも必ず再訪するつもりです。また、私にとって旅先での街歩きは欠かせませんので、パリやバルセロナ以外にもドゥブロヴニクやザルツブルグの歴史地区ではカメラ片手に歩き続けました。未訪問のサナアではモザイク模様の鮮やかなアラビアン・ナイトの世界、麗江では壮大な中国史に、きっと想いを馳せることでしょう。これから注目されるアジア圏では、アジアでは珍しい石塔

寺院の『百済の歴史地区』やシンガポール初の世界遺産『シンガポール植物園』、また、これから世界遺産条約締結が期待される、台湾の金瓜石(きんかせき)に関心を寄せています。金瓜石は、映画『千と千尋の神隠し』の舞台となった九份(きゅうぶん)旧市街から車で10分程度の近くにあつて、日本統治時代に発見された金の鉱山跡が残っています。九份はこの砂金貿易によって“小京都”と呼ばれるまで繁栄し、市内にある黄金博物館ではその変遷を詳しく知ることができます。

### ——世界遺産が与えてくれる 浪漫への感謝

ユネスコが世界遺産活動を通して、歴史的価値のあるものを現在に遺してくれることに感謝しています。国際平和というと、実感することの難しい理念ですが、保全・保護活動のおかげで私たちは歴史や文化を体感することができます。そのためにも、まずは私たちWHA認定講師が世界遺産の価値や魅力を伝えていくことが大切です。以前、亜細亜大学国際関係学科の学生たちから、現在シリア

で頻発しているISISの破壊活動や、南京事件資料の世界記憶遺産登録に反発した日本のユネスコ分担金の凍結表明について、私の考えを問われました。基礎知識を越えた、世界遺産の抱える諸問題に取り組もうとする真剣な姿に、平和の輪の拡がりを実感しました。私が受け持つ講座では、必ず学生に世界遺産は人気の観光地だけではなく、それをずっと守ってきた人々がいて、だからこそ今ここに存在し、旅先で感動を与えている、そのことへの感謝を忘れてはいけないと伝えています。ガウディ建築は一件ごとに入場

料約20ユーロが必要となりますが、世界遺産が今に遺っていることへの感謝と考えたら、ほんの心付けではないでしょうか。未来の子どもたちに見せてあげたい世界遺産が、その時その場所にあるとは限りませんし、私が訪問をこの先にとっおている、ストラスブールやピエンツァの市街地、クラクフ歴史地区にヴィエリチカ岩塩坑も、もしかしたら失われてしまうかもしれません。世界遺産の素晴らしさに心からの感謝を忘れず、世界遺産の出会いから生まれる感動を、多くの人々に伝えていきたいと願っています。